

平成29年度 主題推進計画（案）

2. 本年度の研究主題

◎ 研究主題

北九州子どもつながりプログラムを活用した よりよい人間関係づくりの研究

◎ 研究仮説（仮）

次の二つの手立て（①「北九州子どもつながりプログラムをもとに、本校の児童の発達の段階に応じたプログラムの作成と実践」、②「①と関連付けた日常的な取組」）に取り組めば、児童はコミュニケーション能力を高め、人間関係を調整する能力や技術を身に付けることができるであろう。

◎ 主題研究計画

- 第1年次……「北九州子どもつながりプログラム」をもとにした、児童の発達段階に応じた対人スキルアップの実施→「木屋瀬小 人権教育年間カリキュラム」の作成
第2年次……木屋瀬人権教育カリキュラムをもとにした対人スキルアップ授業の実践と検証
第3年次……日常的な対人スキルアッププログラムの取り組みによるプログラム学習の深化の研究

3. 研究のキーワード

- ・対人スキルアッププログラム学習によるよりよい人間関係づくり
- ・日常的な取組を関連付けることによるプログラム学習の深化

4. 仮説実証の具体的な手立て

I 各学年の発達段階等の実態に合わせたプログラムの選定

段階的に自己理解、他者理解を深め、自己をコントロールすることや友達と協力することができるようにするために、「北九州子どもつながり」プログラムをもとにして、児童の発達段階に応じてプログラムを選定する。

II 意欲的に授業に取り組むための事前の活動及び導入の工夫

児童が主体的に対人スキルを身に付けることができるようにするために、事前の活動や導入を工夫する。

III 体験的に対人スキルを身に付けるための活動の工夫

児童が体験を通して対人スキルを身に付けることができるようにするために、教科学習における体験的活動や話し合い活動を工夫する。

5、研究計画

- 5月初旬 計画案提案
- 5月15日～ . . . アンケート実施 (SEL・ステキアンケート)
- ↓
- 運動会練習期間中
↓
集団・個人の課題分析
- 5月31日 (水) . . . 対人スキルアッププログラム授業についての学習会
- 6月24日 (水) . . . 対人スキルアップ授業A研①
講師 福岡教育大学教授 小泉 令三先生
- 9月～11月 A研③・B研
- ～12月26日 . . . 研究紀要作成・提出 ※形式については後日、別途提案

6、具体的な研究の進め方

- (1) 授業研究 昨年度作成の「木屋瀬人権教育カリキュラム」の実践 (全員違うプログラムを実践する)
- ・ A研は近接学年の中から1学級実施する。(全職員参観・協議)
 - ・ A研の授業記録は同学年が行い、協議会の司会・記録は近接学年が行う。
 - ・ A研をした学年は、他の学級はC研。A研のない学年はB研を実施する。B研は近接学年での参観、協議を行う。
 - ・ なのはな学級はB研を実施する。(交流学級担任参観、協議)

6年	A研	C研
5年	B研	B研

※A研の学年はC研 近接学年 B研

- ・ 同学年 異なるプログラムを実践することで「人権カリキュラム」の検証を行う。
- ・ 学期に1つのプログラムを実践する。そして、その授業を核として、日々の事前の活動とその後の事後の活動を結びつける、継続した「対人スキルアッププログラム」の取組をする。



日常的な取組を関連付けることによるプログラム学習の深化

(2) 児童の変容について

- 学習中や休み時間等における言動や考え方、および人間関係の変容 等
(抽出児童、定点観察、アンケート、日記等)

(3) 研究紀要作成

- ・ 12月に各自研究紀要原稿を作成し、提出する。(様式等は2学期に提案)
キーワード：自己理解、他者理解、体験的活動、話し合い活動、SEL-8S

7、昨年度の研究紀要より抜粋

本研究では、北九州子どもつながりプログラムをもとにした、対人スキルアップ学習のあり方を中心に研究を進めた。今後、児童のコミュニケーション能力の育成が求められ続けていく中で、一連の活動を通して対人スキルを身に付けさせることが大切であると考えた。

そこで、各学年に応じた実践の中で、統一した研究の視点をもって学習を行ない検証していった。以下は全学年統一した取組である。

- 手立てⅠ：各学年の発達段階等の実態に合わせたプログラムの選定
- 手立てⅡ：意欲的に授業に取り組むための事前の活動及び導入の工夫
- 手立てⅢ：体験的に対人スキルを身に付けるための活動の工夫

実践の中で、各学年の実態把握や、教材の改良、モデリング、交流の手立てなどを考えていく過程で、さまざまな課題にぶつかった。教師が協力してその課題克服に向けて努力を重ねながら児童が達成感を味わいつつスキルを身に付ける授業とは何かを探る一年だった。

実践の結果、事前の活動を充実させ、ゴールイメージとなるモデルを具体的に示し、繰り返し体験的活動に取り組めるように授業の展開を工夫することが重要であることが分かった。

また、対人スキルは、教科等の授業の中で磨いていくことも重要である。そのためには、教科等の教育と対人スキルアップ学習とをバランス良く結びつけなくてはならない。

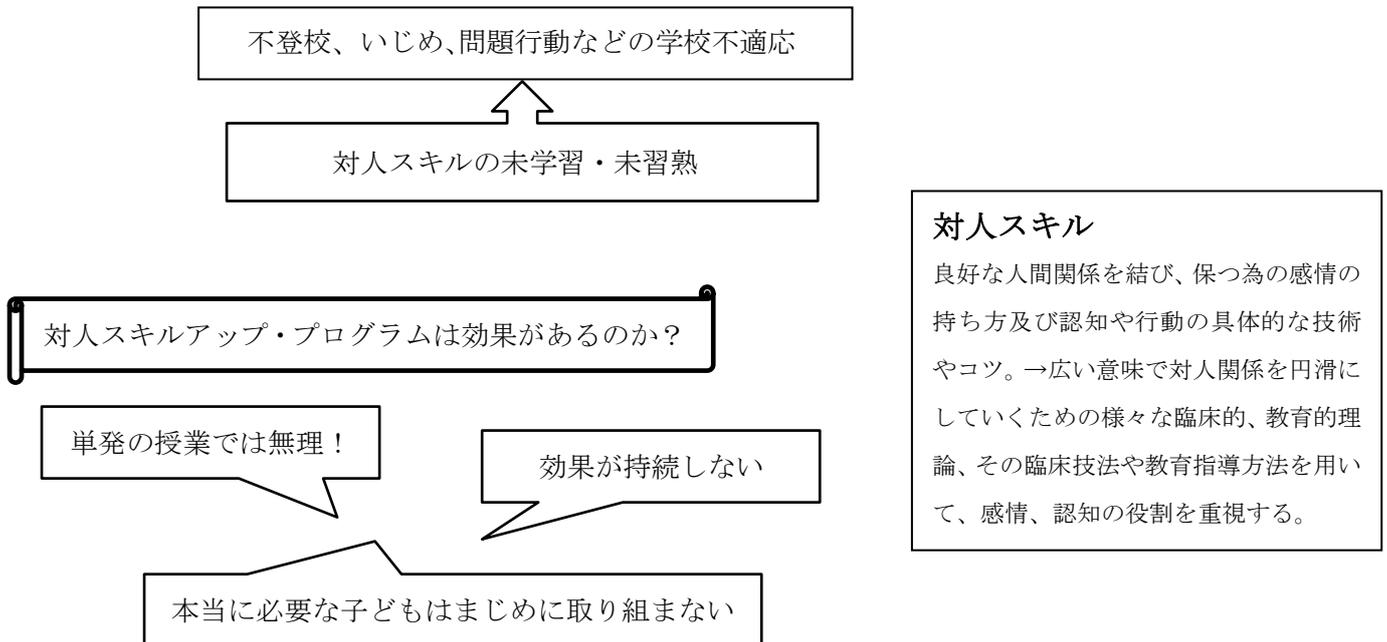
今後も継続的に、プログラムの選定の仕方や授業展開の工夫について研究を進めたい。そして、各教科等のなかで対人スキルを身に付かせる方法についても、新たに研究を進めていきたい。

8、参考

対人スキルアッププログラムとは、

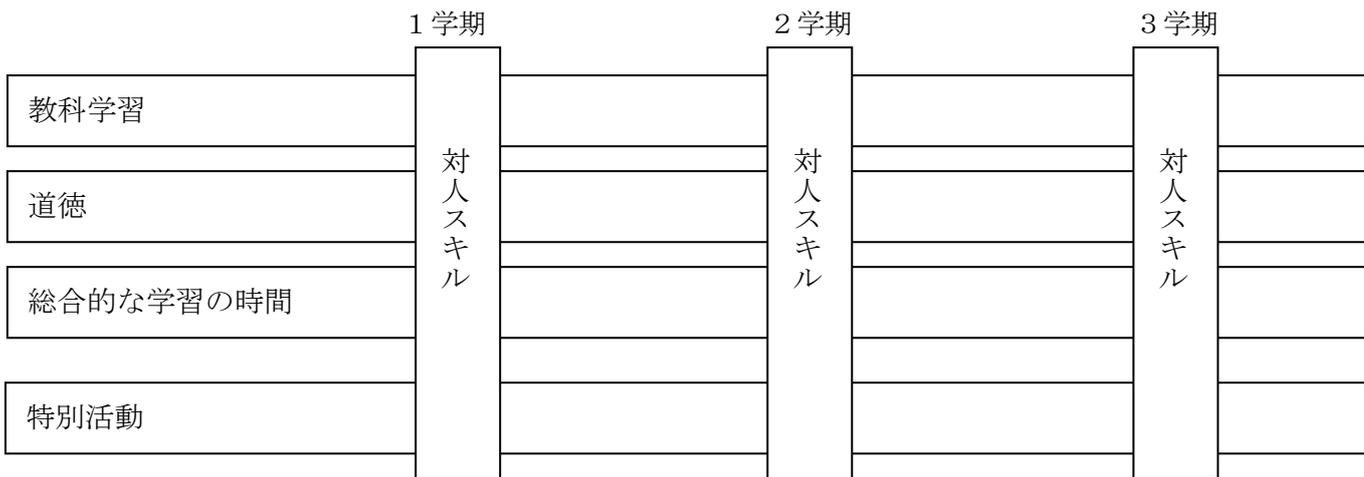
- ◎対人スキル（対人関係形成・維持、自他尊重、問題解決）
- ◎ストレス・マネジメント（ストレスに気づき対処する）
- ◎自尊感情（ありのままの自分自身を受け入れている）
- ◎ソーシャルサポート（周囲からの支え・承認を認識）

今なぜ、対人スキルアップ学習か？



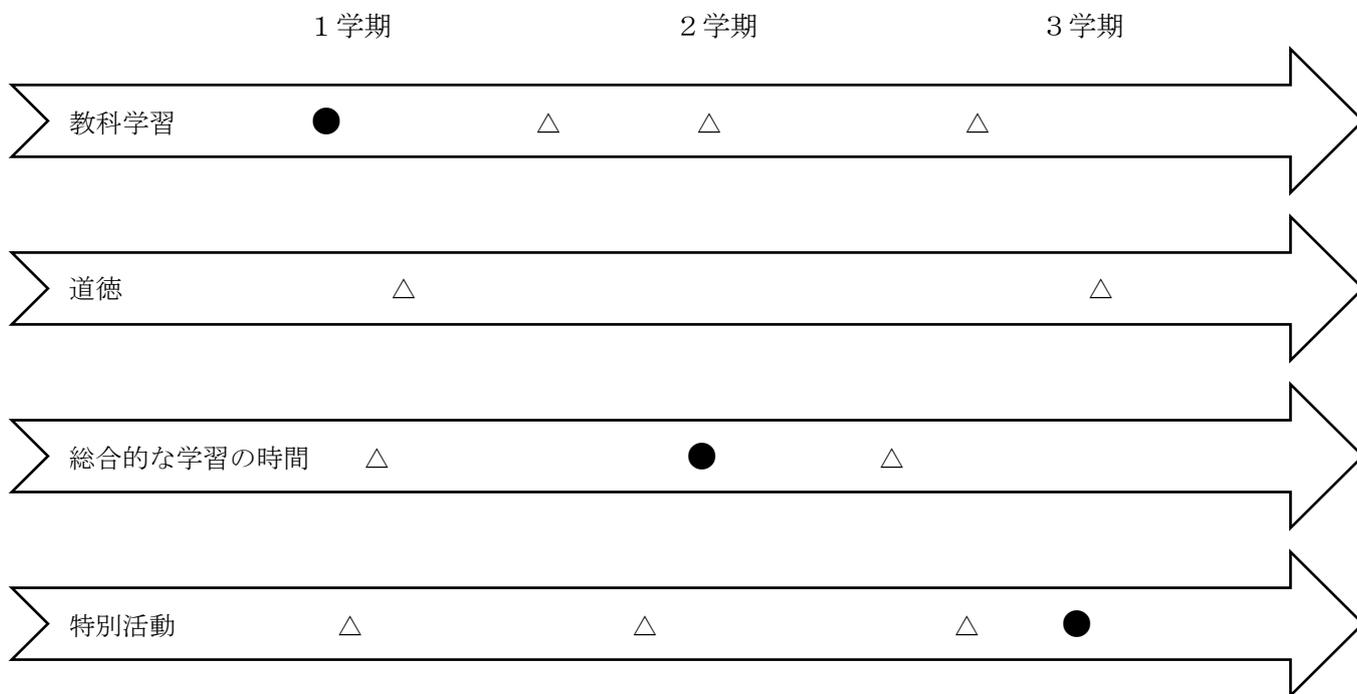
対人スキルアッププログラムを“プラスα”の特別行事から主流化・日常化へ

(1)現在



(2)今後の展開のイメージ

あらゆる教育活動の中で



※ 学期に1回の授業を核にして、各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動（行事や学級活動）において、関連したテーマを取り扱う工夫

①教科の中で

- ・ 関連の深いテーマ探し（例：保健 心の健康）
- ・ 授業方法に関連して（グループ学習のやり方として……）

② 年間行事において対人スキルアップと関連した目標の設定 (or 対人スキルアップと関連付けた形の目標の読み替え) 事前事後の取り組みでの明確化

③ 日々の学級活動での取り扱い